

加古川から由良川水系域へ 山越のない「水別れ街道」を行く 2011.5.14

古代 大陸・朝鮮半島から日本へ 日本海沿岸から大和を結ぶ鉄の道



日本一低い中央分水界 丹波市氷上町石生 「水別れ」 2011. 5. 14.

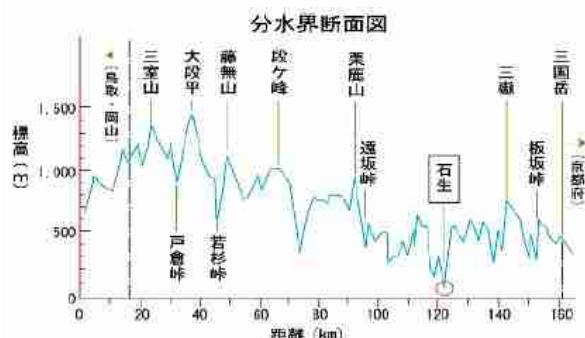
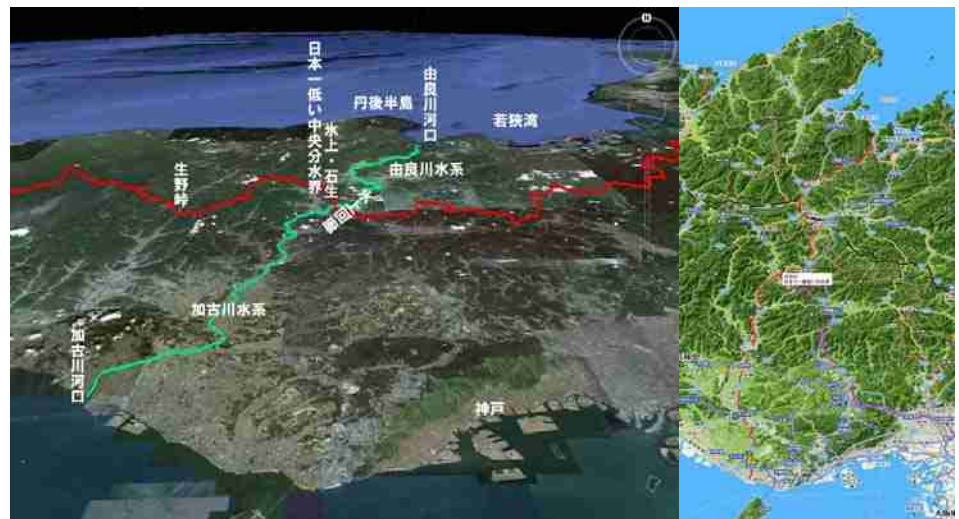
丹波市氷上町石生の「水分（みわか）れ」は、本州で最も低い標高の中央分水界で、日本海に注ぐ由良川と瀬戸内海側へ流れる加古川をつなぐこの低地帯は「氷上回廊」と呼ばれている。

日本列島を太平洋側と日本海側とに隔てる“高い壁” 日本列島の背骨 “中央分水界を容易に越えられるわずか95.4mの標高の氷上回廊は太古の昔から、現在に至るまで 重要な人の交流・交易路であるばかりでなく、数多くの生物の南北の移動経路として重要な役割を果たしてきました。

弥生末から古墳時代にかけての日本誕生の黎明の時代
大陸・朝鮮半島の鉄を必要とする卑弥呼邪馬台国・大和初期王権にと
って 出雲・妻木晩田・青谷上寺地 そして但馬・丹後と鉄の王国が
連なる日本海沿岸へ瀬戸内側から安全・容易に出られるこの氷上回廊
は 重要な大陸・朝鮮半島との交流路。
瀬戸内海とともに古代の鉄の道をイメージし、何度となく古代の鉄
を求めて訪ねた道である。

この4月 書店で「邪馬台国と「鉄の道」-日本の原型を探索する-」という新刊文庫本が目に残りました。

ここにも日本の源流を鉄と結びつけ、氷上回廊を見ている人がいると「鉄の道」の表題に惹かれて読みました。



まだ、その評価が定まった説ではありませんが、
魏志倭人伝に記された北部九州から邪馬台国への
道の謎が、

「 朝鮮半島→北部九州から
山陰日本海沿岸→氷上回廊
→淡路島→紀ノ川を通して大和へ 」と

実に明快に謎解きされていました。

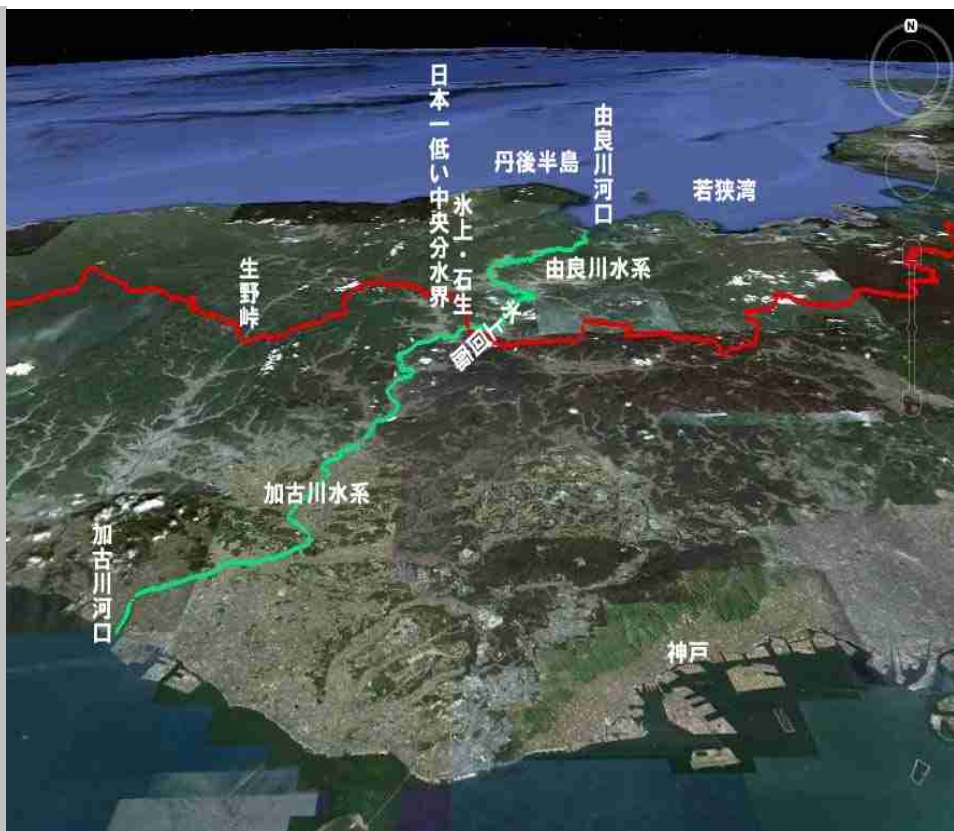
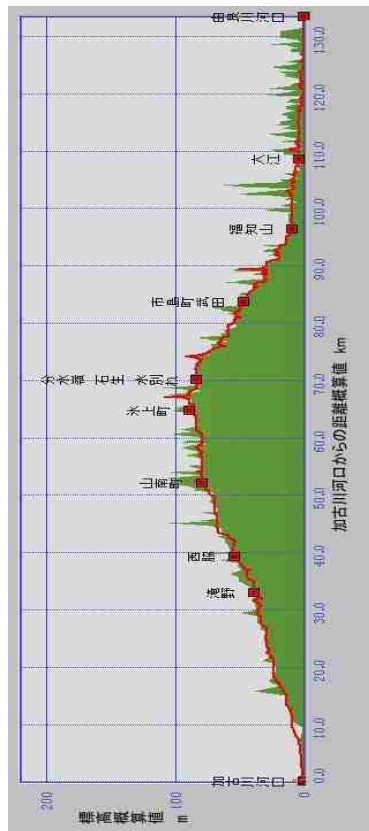
また、この氷上回廊の鉄の道が日本での製鉄の始
まりとともに琵琶湖経由の鉄の道へ移ってゆくと
の説も新鮮で気に入っています。

何度も通ったことがある氷上回廊周辺ですが、「本当に山越・峠越なしに瀬戸内側から日本海までゆけるのか??」

古代 まだ馬がない時代 陸路では平坦さが本当に重要だったろう。

瀬戸内の海路では島が多く 海賊や多くの国々との和睦なしには海路は厳しく、平坦で安全が確保できる日本海沿岸から氷上回廊を通るルートは古代の重要路に違いない。 国土地理院の地図上でねーとをしらべると 本当になだらかな道筋。
分水界の低さもさることながら、瀬戸内から山越え・峠越えなしで 日本海へ行けそうである。

これは おもしろそう 是非やってみなければ・・・



国土地理院の地図での氷上回廊並びに分水界の標高トレース 氷上回廊の面白さが一目

また、尼崎で育った私には摂津の国 武庫川水系を遡って篠山から氷上・水別れを越える道 現在の福知山線が通る道の方に昔から親しみがあり、この道との比較も実際に確認してみたい。

日本で一番低い分水界「水別れ」を直接見たのも随分昔。以前とは全く違う美しい公園に整備されていると聞く。

是非 きっちりと周囲の地形を眺めながら 分水界「水別れ」を越えて氷上回廊を行こうと。

この氷上回廊の中を国道 175 号線が明石から加古川を遡り、丹波市氷上町石生「水別れ」で分水界を越えて由良川水系の竹田川沿いを福知山へ抜け、そのまま由良川の河口の日本海(舞鶴)を結んでいる。

何度もミニバイクや車で走った道である

今まで気にも止めていなかったのですが、今回この国道 175 号線を「水別れ街道」と名づけられていること初めて知りました。また、福知山から西へ由良川に合流する牧川沿いの国道 9 号線を進むと但馬和田山から円山水系の日本海側の豊岡・出石へも容易にたどることができて この氷上回廊は今もに瀬戸内側と日本海を結ぶ重要路である。

さらに中央分水嶺を挟んで北にある市島町と南側の氷上町が合併して丹波市を形成しているのも、分水嶺が低く合併に抵抗感がなかったためでしょうか・・・珍しいケースです。

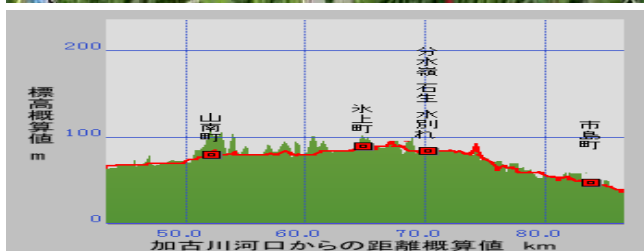
地図を見ながら 少し調べはじめると次々と面白いことが出てきて、実に面白い。

私の好きな青と緑色グラディエーションの美しさにびっくりした「九谷焼 徳田八十吉展」が

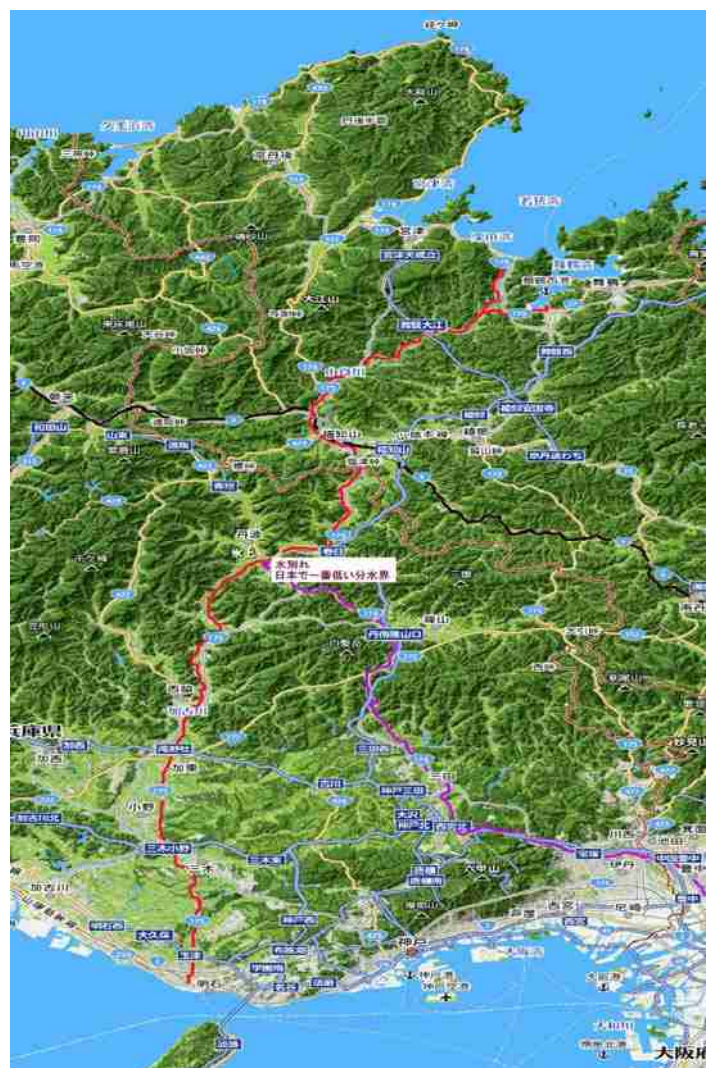
ちょうど篠山立杭の郷 兵庫陶芸美術館で開催されているのに合わせて、

五月晴れの 5 月 14 日朝 本当に山越えなしで瀬戸内側から日本海まで行けるか??」を確かめに

家内と二人神戸を出て 一番の興味「氷上回廊は 新緑の中を流れ下る加古川から由良川へ「水別れ街道[国道 175 号線]」を走りました。



日本で一番低い中央分水界 丹波市氷上町石生「水別れ」
北側は日本海へ 南側は瀬戸内へと水が別れる



2. 【資 料】 氷上回廊 概要 と 古代 氷上回廊周辺の古代遺跡分布

1. 氷上回廊 氷上回廊と日本で一番低い分水嶺 丹波市氷上町石生水別れ

風が出会い、水が入り混じるところ 雪国の風と南国の風が、ここで出会い、
水が生まれ、川が入り混じり、そして また二つの海へと分かれていく・・・

丹波市氷上町石生の「水分（みわか）れ」は、本州で最も低い標高の中央分水界で、日本海に注ぐ由良川と瀬戸内海側へ流れる加古川をつなぐこの低地帯は「氷上回廊」と呼ばれている。

中央分水界は、日本列島を太平洋側と日本海側とに隔てる“高い壁”のようなものであり、わずか95.4mの標高の氷上回廊は、多くの生物の南北の移動経路として重要な役割を果たしてきました。

例えば、カナメモチやリンボクなどの照葉樹林(*)構成種は氷上回廊に沿って日本海側に入り分布域を拡大し、アブラボテ、ニゴイ、ホトケドジョウなどの魚類も氷上回廊を北上して分布域を拡大したとの報告もあります。南下の例としては、日本海側を分布域とするユキグニミツバツツジが六甲山や淡路島諭鶴羽山に分布し、六甲山のブナも日本海側のブナに由来するものと考えられています。

このように、多種多様な生態系が県内に存在する背景には、動植物が出会い、交わった氷上回廊の存在が重要な役割を果たしたと考えられている。

ひょうごの生物多様性ひろば

<http://www.pref.hyogo.jp/JPN/apr/topics/biodiversity/index.html> より

氷上回廊は1000～3000m級の山々が連なる本州の内陸部にあって、標高わずか95mで本州を南から北へまたぐことができる兵庫県から京都府の内陸部を南北に貫く細長い低地帯。この特殊な地形によって、雪国と南国の気候が出会い、生命が不思議に入り混じり、豊かな文化と歴史が培われてきました・・・

● 日本海側と太平洋側に大きく分断された川魚たちの世界

氷上回廊の低地帯では、かつて、日本海側へ流れていく川と太平洋側へ流れていく川とが、洪水のたびに入り混じり、北国と南国の二つの世界で進化してきた魚たちが、この入り混じった水の中で頻繁に出会い、相互に広がっていった。氷上回廊を通り抜けて、日本海側と太平洋側の境界線を越えていた。

日本海側の河川にのみに生息するといわれていたヤマメが、太平洋側に生息するアマゴ（ヤマメの近縁種）と混生しているのが見つかった。（丹波市青垣町の佐治川（加古川上流域））

オヤニラミやイトモロコ、ナガレホトケドジョウなどの南方系の魚は北の由良川に、北方系のホトケドジョウやアブラハヤ、ミナミトミヨ（※今は絶滅）などは南の加古川に分布を広げた。

その結果、ホトケドジョウとナガレホトケドジョウ、アブラハヤとタカハヤなど、本来北と南で別々に暮らしていた近縁種同士が同じ河川で共存するとても珍しい水域となっている。

● 陸の生き物たちも、この氷上回廊を南北に駆け抜けてきた。

低地に暮らす植物たちにとって、高い山々に登ることは容易ではありませんが、氷上回廊は、標高100m内外で本州をまたぐことができる低地帯。

太古の昔から、寒冷な氷河期と温暖な間氷期という気候変動を繰り返してきた地球の気候変動のリズムにあわせて、植物たちも、この氷上回廊を北から南へ、南から北へと駆け抜けていた。

氷上回廊を取り巻く地域では、今もなお、南国の森に栄えるカナメモチやリンボク、ヤマモモ、モチツツジなどと、北国の森に栄えるユキグニミツバツツジやカタクリ、エゾエノキなどが豊かに混在しています。

丹波市ホームページ 「氷上回廊」より <http://www.tamba-hikamikairo.com/index.html>

2. 【資料】氷上回廊周辺 但馬・丹波・丹後の主要古墳分布図

2.1. 氷上回廊周辺 但馬・丹波・丹後の主要古墳分布図

氷上回廊は日本海/瀬戸内を結ぶ重要な交流路

大陸・朝鮮半島と大和を結ぶ重要な交流路であったに違いない

インターネットにあつた資料を集めましたので、時代の異なるものやプロット漏れがあるとおもいます。

古代日本の黎明の時代に氷上回廊周辺から日本海にかけての地域に大きな勢力(国)があり、初期大和王権と大きくかかわっていたことやこの時代に氷上回廊が重要な役割を果たしていたことを示す参考資料とお考えください。



兵庫県の主要全貌後円墳

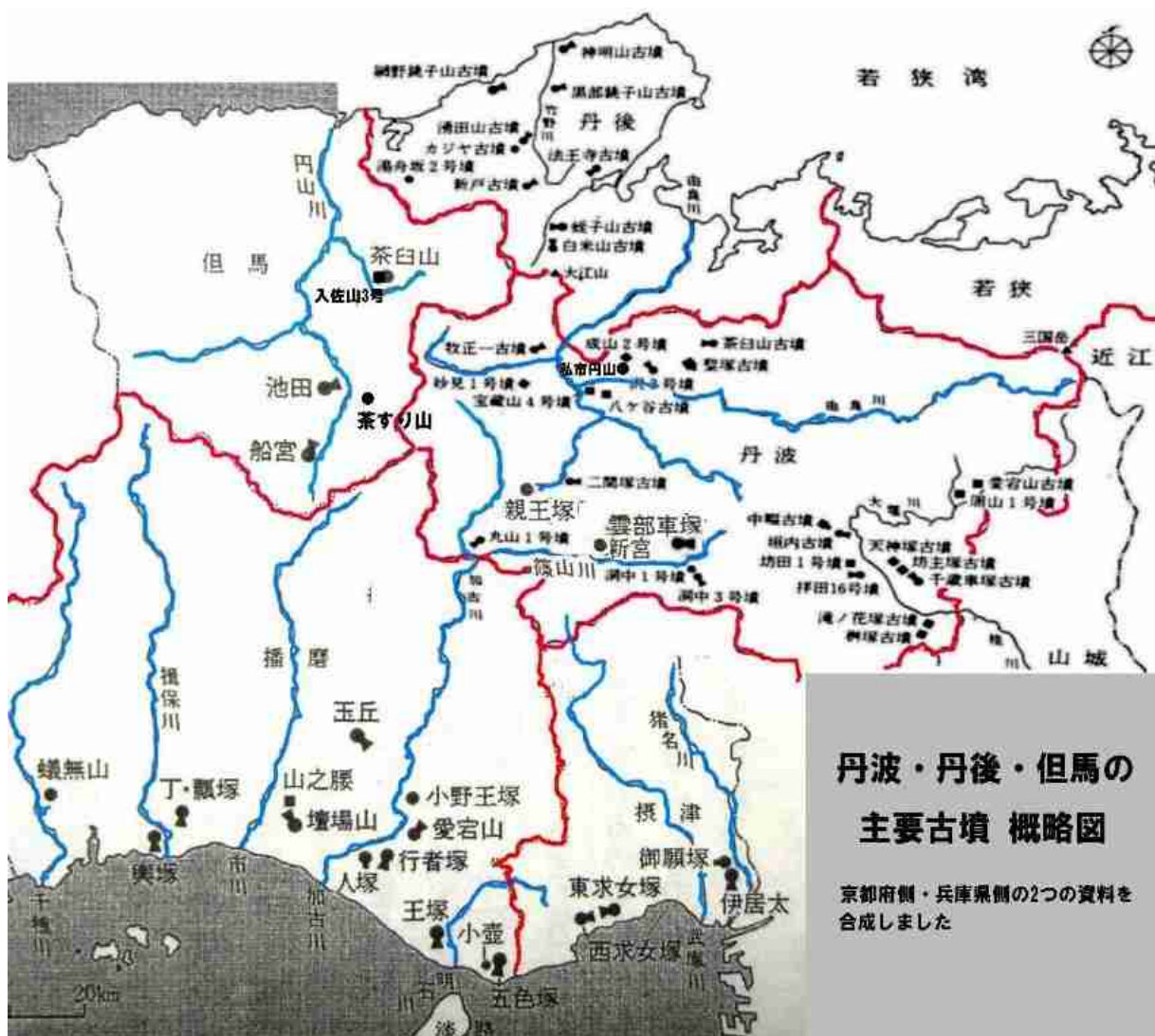


図26 丹波・丹後の主要古墳の分布
日本の古代遺跡 京都 I 保育社 刊より引用作成

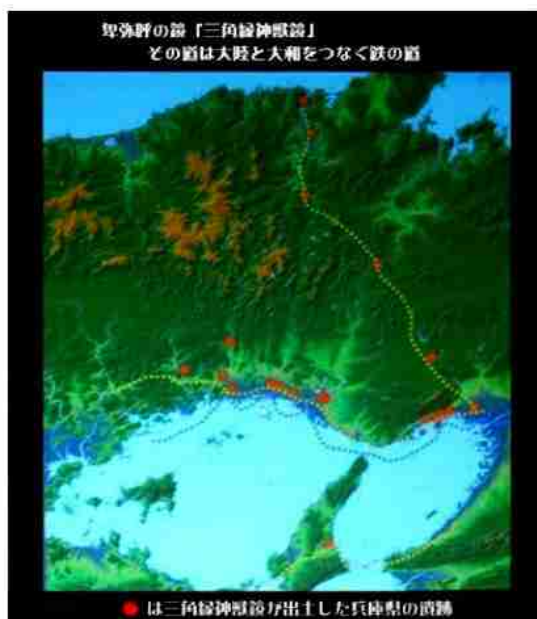
丹波・丹後の主要古墳分布



日本海沿岸の大型円墳



2.2. 但馬・丹後は古代鉄の王国 そして 氷上回廊は日本海沿岸と瀬戸内・大和を結び古代の鉄の道



少々 こじつけ気味であるが、兵庫県で出土した三角縁神獣鏡の出土地を点でつなぐと、畿内攝津の尼崎から大阪湾神戸を播磨へ抜けてゆく重要路 瀬戸内海の道筋と丹波・但馬を抜け、日本海をたどる道筋が見えてくる。
特に 丹波・但馬・因幡とつなぐ道は、数多くの渡来人・製鉄鍛冶の歴史を刻む鉄の道。この鉄の道の存在が大和王権を作った吉備・出雲・大和を結び付けたに違いないと考えている。

和鉄の道 2007年1月

「神戸市内出土の三角縁神獣鏡の足跡が語る古墳時代の鉄の道」より



鉄の生産地を示す「金屋」系統・湯凝系統・鉄の輸送路を示す湯浦(由良)系統の地名を気がついた近畿地方の地図に落とす

鉄の道 マップ

見事に由良川=加古川=淡路島=紀ノ川ラインに乗る
小野田泰直著「邪馬台国と『鉄の道』」より

【弥生時代 鉄製品が出土した丹後の遺跡】

邪馬台国大研究・ホームページ / 丹後半島の歴史 / 遠所遺跡遠所遺跡より

http://inoues.net/tango/enjyo_iseki.html



遺跡名	所在地	遺跡の概要	出土品	年代	備考
1 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
2 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
3 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
4 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
5 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
6 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
7 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
8 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
9 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
10 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
11 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
12 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
13 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
14 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
15 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
16 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
17 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
18 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
19 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
20 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
21 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
22 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
23 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
24 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
25 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
26 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
27 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
28 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
29 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期
30 弥生前期	丹波市	弥生前期	弥生前期	弥生前期	弥生前期

【但馬・出石 砂鉄を副葬していた入佐山 3号墳】

【但馬の大王の墓 和田山 茶すり山古墳(巨大円墳)】

和鉄の道 コウノトリが結ぶ古代和鉄の道 但馬 出石・豊岡より



3. 新緑の加古川から由良川へ 氷上回廊を南北に走る水別れ街道 [国道175号線] を行く スナップ 「氷上回廊を通れば 本当に山越・峠越なしに瀬戸内側から日本海までゆけるのか??」



1. 陶芸の里 立杭で「九谷焼 徳田八十吉展」を見た後、篠山から国道176号線[デカンショ街道]で丹波市氷上町へ



篠山から直接氷上回廊の氷上盆地に入るには鐘ヶ坂の峠越えが必要だった 2011.5.14.

篠山から加古川に合流する篠山川沿いを西に山南に下れば、氷上回廊に入れるが、大きなロスになる

2. 加古川が氷上盆地から南へ流れ出る盆地南端部にて、南から氷上回廊を登ってきた水別れ街道 175号線に出る この加古川の土手周辺に広がる田園では5月の休みが過ぎ、田植えが始まっていました 丹波市氷上町新郷



周囲を緑に包まれた山に囲まれた氷上盆地の田園の中をゆったりと加古川が南へ流れ下っていました

田園では田に水が入り、田植えの真っ最中 そんな中に レンゲ畑が加古川の土手まで続いていました

3. 日本一標高の低い中央分水界 丹波市氷上町石生「水別れ」

氷上回廊はこの水別れの分水界を越えて 北の由良川水系の地域を日本海までなだらかに下ってゆく





街の中を日本一低い分水界が走る丹波市氷上町石生 ここが分水界だととは思えない
丹波市氷上町石生水別れ この谷川が分水界の上を走る 左側が日本海側 右側が瀬戸内側



東西に走る中央分水界を形成する東の丹波山地と西の中国山地
その尾根筋の切れ目が 氷上町石生 水別れ公園 水が二手に分かれる

丹波市氷上町石生水別れ 分水界を越えた北側の街道筋



日本で一番低い分水界 水別れ

氷上町石生 水別れ公園で 2011.5.14.

4. 水別れの分水嶺を越えて 北側 由良川水系竹田川が流れる丹波市市島町へ 北へ流れる竹田川を見る
丹波市は中央分水嶺を越えて 表日本・裏日本両方に広がる珍しい街



冷々系の山々を眺めながら、街園地帯を歩く 春日町から市島町へ 2011.5.14.



竹田川は間道いなく北へ流れている 2011.5.14.
加古川から竹田・由良川を結ぶ水別れ街道は山越えすることなく 瀬戸内と山陰を結んでいることが、清楚で青々とした
市島町支所まで行くと、一帯は竹田川の水別れ街道を築いておられる



市島町支所に流れ下り、由良川に合流する竹田川 2011.5.14.
竹田川は間道いなく北へ流れている
加古川から竹田・由良川を結ぶ水別れ街道は山越えすることなく 瀬戸内と山陰を結んでいることが、清楚で青々とした

石生の街をぬけ、分水嶺の山々を眺めながら 少し下っていると感じながら北へ
春日の街並みを抜けると広い田園地帯が広がる市島町 竹田川がゆっくりと北へ下っていく姿が見えました



竹田川に竹田川が見え、間道いなく北へ流れている 2011.5.14.



市島町・春日の街 2011.5.14.



丹波市市島町・春日の街 2011.5.14.

市島町を北に走る水別れ街道から少し西へ 分水嶺の山並みに痴れたところに九尺の藤で有名な古刹 白毫寺
ちょうど満開で ほのかな花の香がたどよう淡い紫の花に顔を突っ込む

5. 由良川に合流する竹田川が北に注ぐのを確認して、水別れ街道を明石までまっすぐ氷上回廊の中を引き返す
氷上回廊はすごい回廊 やっぱり 瀬戸内から日本海まで 高い山越え・峠越えはまったくなし
古代 大陸と大和を結ぶ鉄の道の本街道 卑弥呼の道だったのかもしれない



加古川の土手に戻ってきて、 まっすぐ加古川に沿って南へ 水別れ街道を下る



市島の庄 西陽原で



2011.5.14.



山間を抜け、広大な播磨平野をまっすぐ南へ 社町周辺 2011.5.14.

加古川の土手を南へ山間地をぬけると広い播磨平野
古代 大陸と大和を結ぶ鉄の道の本街道
卑弥呼の道だったのかもしれない

氷上回廊はすごい回廊 やっぱり 瀬戸内から日本海まで 高い山越え・峠越えはまったくありませんでした

「氷上回廊を通れば 本当に山越・峠越なしに瀬戸内側から日本海無でゆけるのか???」 氷上回廊の謎解きの Walk もこれで完了

日本で一番低い分水界[水別れ]を越えて 瀬戸内海と日本海を結ぶ氷上回廊

3. [まとめ] 加古川水系域から由良川水系域へ 山越・峠越のない「水別れ街道」に行く

風が出会い、水が入り混じるところ 雪国の風と南国の風が、ここで出会う
水が生まれ、川が入り混じり、そして また二つの海へと分かれていく・・・



丹波市氷上町石生の「水分(みわか)れ」は、本州で最も低い標高の中央分水界で、日本海に注ぐ由良川と瀬戸内海側へ流れる加古川をつなぐこの低地帯は「氷上回廊」と呼ばれている。

中央分水界は、日本列島を太平洋側と日本海側とに隔てる“高い壁”のようなものであり、わずか 95.4m の標高の氷上回廊は、多くの生物の南北の移動経路として重要な役割を果たしてきました。

例えば、カナメモチやリンボクなどの照葉樹林(*)構成種は氷上回廊に沿って日本海側に入り分布域を拡大し、アブラボテ、ニゴイ、ホトケドジョウなどの魚類も氷上回廊を北上して分布域を拡大したとの報告もあります。

南下の例としては日本海側を分布域とするユキグニミツバツツジが六甲山や淡路島諭鶴羽山に分布し、六甲山のブナも日本海側のブナに由来するものと考えられています。このように、多種多様な生態系が県内に存在する背景には、動植物が出会い、交わった氷上回廊の存在が重要な役割を果たしたと考えられている。

ひょうごの生物多様性ひろば

<http://www.pref.hyogo.jp/JPN/apr/topics/biodiversity/index.html> より



本当に氷上回廊を通れば 瀬戸内海から日本海まで、山越えの峠通らずに行けるのか????

これを確認したくて、氷上回廊を走る水別れ街道を走りました。

新緑に包まれた陶芸の郷で 素晴らしい九谷の陶芸展を見て、水別れ街道を走る山々は新緑に包まれ、街道筋の田圃には水が入り、田植えが始っていました。また、一面ピンクのレンゲ畑も。

そんな中を日本で一番低い分水界から 北に由良川に流れ込む竹田川南へ加古川がゆったりと流れ下っていました。

今でないと見られぬ春から初夏へと移り変わる季節の素晴らしい田園風景でした

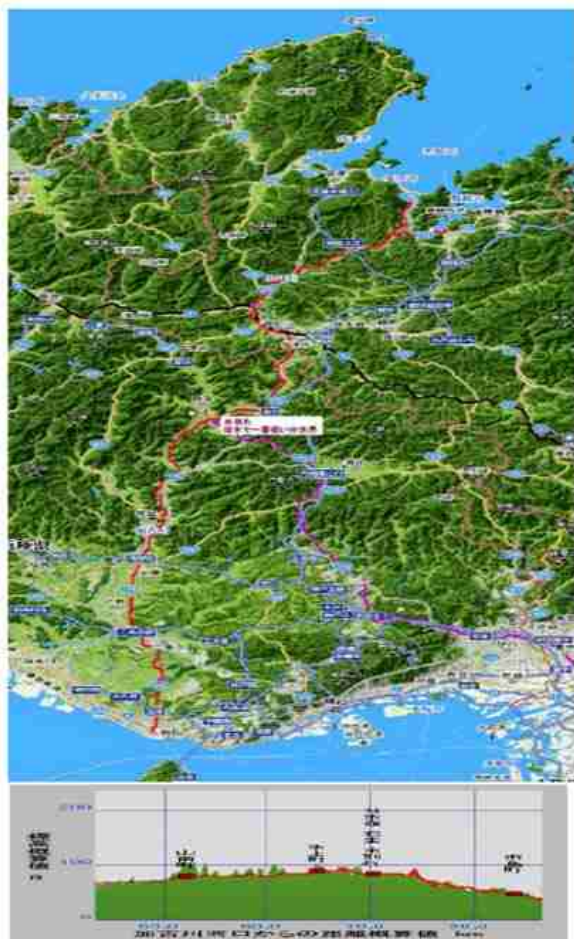


1. この氷上回廊に行く水別れ街道は 日本海まで 本当に山越え峠がありませんでした
2. 加古川水系と由良川水系の分水界 日本で一番低い分水界 氷上町石生の「水別れ」
久しぶりでしたが、美しい公園に整備され、水の流れの分水には作られた分水の感じがしましたが、分水界を越える道にしゃがんで見通すとここが分水界と判る。(国道 176 号線が国道 175 号線にひきつがれる水別れ橋で)
3. もう一つ 「武庫川水系の篠山から山越えなしに水別れの分水界を直接越えられる」と思っていました、篠山盆地と氷上盆地の間の鐘ヶ坂の山越えがありました。

氷上回廊を通して、福知山に出ると由良川を下って丹後の日本海に出られる。

また、福知山から 西に国道 9 号線の道を取れば、大きな峠を越えることなく和田山から但馬の 中心を日本海に流れ下る円山川に出られる。

氷上回廊は大きな山越・峠越なく、瀬戸内海と日本海側の但馬・丹後をつなぐ道であること確認。 太古からの動植物移動の重要路 古代 大陸と倭を結ぶ「和鉄の道」 「卑弥呼の道」 そして 今も 国道 175 号線が走る地域交通の要である



中国山地から丹波山地へ
西日本 中央分水界の標高図



参考資料【和鉄の道】より

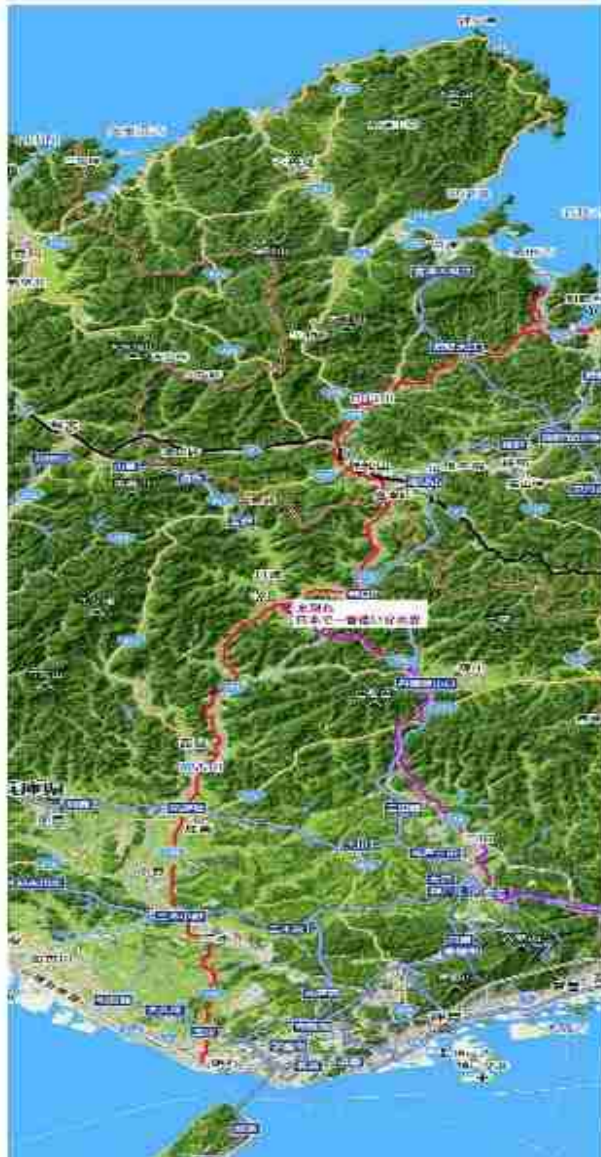
1. 古代鉄の王国 丹後 天女の通った道は和鉄の道 羽衣伝説
2. 丹後国 もうひとつの邪馬台国 大陸と日本を結ぶ鉄の大加工基地 遠所製鉄遺跡
3. コウノトリが大陸と日本を結ぶ古代和鉄の道「古代 和鉄の郷但馬 出石」
4. 古代 神戸の「鉄」を訪ねて 神戸にも製鉄遺跡があった 神戸市内の「二宮製鉄遺跡」と「求女塚古墳」
5. 卑弥呼の時代からの大陸への玄関口 若狭・北近江の「若狭街道」
6. 古代 大和への道【4】 紀ノ川水系【2】 古代「紀路」紀ノ川の流れに沿って大和へ Country Walk

ほか

日本で一番低い分水界[水別れ]を越えて 瀬戸内海と日本海を結ぶ氷上回廊

加古川から由良川水系域へ 山越のない「水別れ街道」を行く 2011. 5. 14.

古代 大陸・朝鮮半島から日本へ 日本海沿岸から大和を結ぶ鉄の道



風が出会い、水が入り混じるところ 雪国の風と南国の風が、ここで出会う
水が生まれ、川が入り混じり、そして また二つの海へと分かれていく・・・

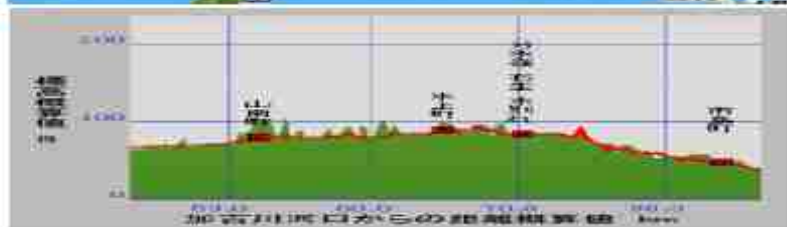
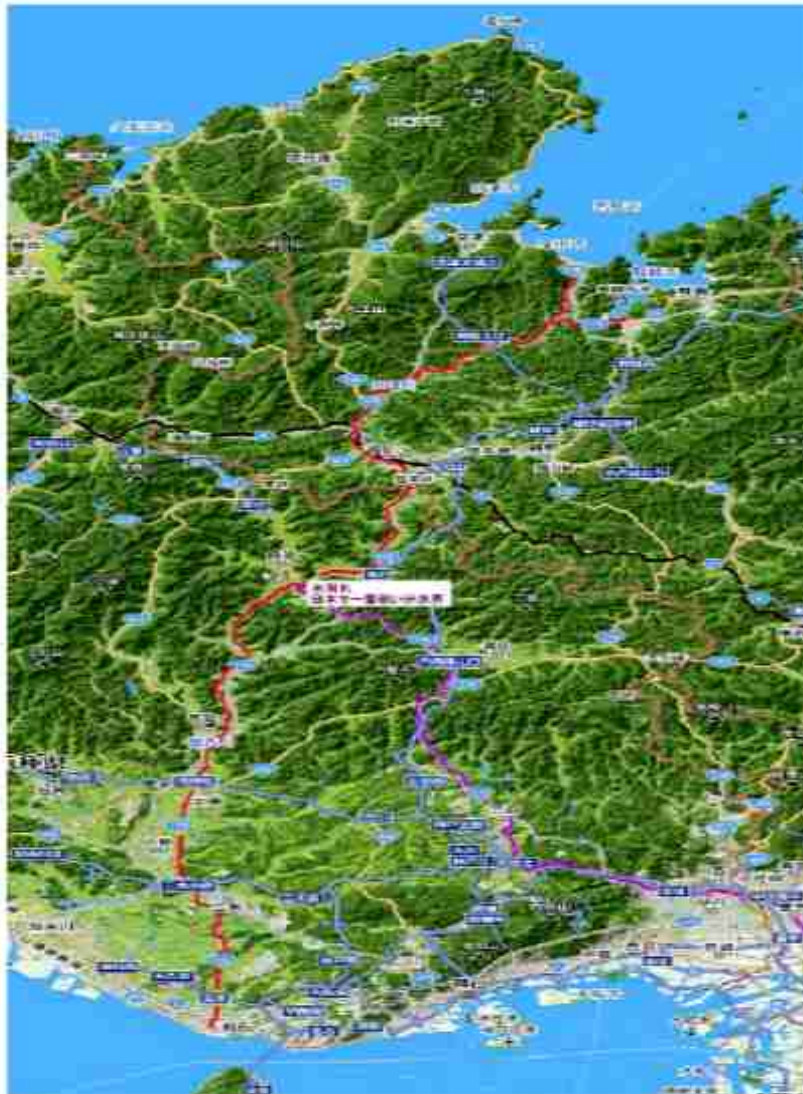
丹波市水上町石生の「水分（みわか）れ」は、本州で最も低い標高の中央分水界で、日本海に注ぐ由良川と瀬戸内海側へ流れる加古川をつなぐこの低地帯は「氷上回廊」と呼ばれている。

中央分水界は、日本列島を太平洋側と日本海側とに隔てる“高い壁”のようなものであり、わずか95.4mの標高の氷上回廊は、多くの生物の南北の移動経路として重要な役割を果たしてきました。

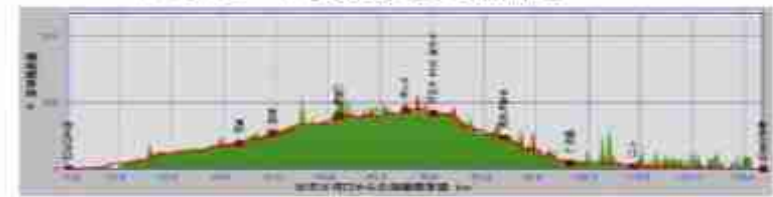
例えば、カナメモチやリンボクなどの照葉樹林(*) 構成種は氷上回廊に沿って日本海側に入り分布域を拡大し、アブラボテ、ニゴイ、ホトケドジョウなどの魚類も氷上回廊を北上して分布域を拡大したとの報告もあります。南下の例としては、日本海側を分布域とするユキグニミツバツツジが六甲山や淡路島諸山に分布し、六甲山のブナも日本海側のブナに由来するものと考えられています。

このように、多種多様な生態系が県内に存在する背景には、動植物が出会い、交わった氷上回廊の存在が重要な役割を果たしたと考えられている。

ひょうごの生物多様性ひろば <http://www.pref.hyogo.jp/2849/contents/biodiversity/index.html> より



中国山地から丹波山地へ
西日本 中央分水界の標高図



氷上回廊は日本海/瀬戸内を結ぶ重要な交流路路

大陸・朝鮮半島と大和を結ぶ重要な交流路であったに違いない

インターネットからの資料などから集めましたので、時代が異なるものやプロット漏れなどがありますので、
ご容赦ください。 古代日本の黎明の時代に氷上回廊周辺から日本海にかけて この地域に大きな勢力(国)があり、
初期大和王権と大きくかかわっていたこと そして その重要な役割を氷上回廊が示す参考資料とお考え下さい。



〔 氷上回廊は古代の鉄の道 但馬・丹後は古代の鉄の王国 〕

鉄製品が出土した
丹後の遺跡



番号	遺跡名	所在地	遺跡の種類	時期	武器				工具						農具		その他	小計	
					鉄製短刀	刀	剣	鎧	斧	ヤリノテ	刀子	鋸	鋸	ノミ	針	鍬			鍬先
1	扇谷遺跡	峰山町	集落	前期末～中期初頭					1									1	
2	桑原下遺跡	舞鶴市	集落	中期中葉～					1	2								3	
3	奈良岡遺跡	弥栄町	集落	中期後葉				3	1			1	2	35	75			117	
4	途中ヶ丘遺跡	峰山町	集落	中期後葉～				2	1									3	
5	日吉ヶ丘遺跡	加悦町	集落	中期中葉～後半					8	1								9	
6	林遺跡	網野町	集落	後期													3	3	
7	大谷遺跡	大宮町	墓	後期初頭				1										1	
8	大山墳墓群	丹後町	墓	後期初頭～末				4		8	1							13	
9	坂野丘墳墓	弥栄町	墓	後期前葉			1											1	
10	三坂神社墳墓群	大宮町	墓	後期前葉	1			10		5	3							19	
11	左坂墳墓群	大宮町	墓	後期前葉～後葉	1	2	1	25		10	4							43	
12	今市墳墓群	大宮町	墓	後期前半						7	1							8	
13	大風呂南墳墓群	岩瀬町	墓	後期後半			15	6		1				1		8		31	
14	金谷1号墓	峰山町	墓	後期後葉			6	3		4	1						2	2	18
15	大石西6古墳群	野田川町	墓	後期後葉			2											2	
16	玉鈴古墳群	野田川町	墓	後期後葉				1		2								3	
17	古天王墳墓群	弥栄町	墓	後期後半～末			3			1								4	
18	赤坂今井墳墓	峰山町	墓	後期末		2		1		7								10	
19	湊後台南墳墓群	網野町	墓	後期末			5			1						1		7	
20	帯城墳墓群	大宮町	墓	後期末～終末期			5			1	1							7	
21	西谷墳墓群	野田川町	墓	後期末～終末期		1	2											3	
22	白米山北古墳	加悦町	墓	後期末～終末期			1	1										2	
23	大田4号墳下層	弥栄町	墓	後期末～終末期			1											1	
24	内和田古墳群	加悦町	墓	終末期～古墳初頭		1	2	11	1	4								19	
25	蔵谷遺跡	久美浜町	墓	終末期～古墳初頭			1											1	
26	大田南古墳群	弥栄町・峰山町	墓	古墳初頭		1	1											2	
27	島津池所古墳群	網野町	墓	古墳初頭				2										2	
28	新石浜遺跡	久美浜町	砂丘	不明				1										1	
29	浜詰まきり遺跡	網野町	砂丘	不明				1		1								2	

鉄製品出土地一覧

但馬・出石 砂鉄を副葬していた入佐山3号墳〔方墳〕 和田山 但馬の大王の墓〔巨大円墳〕

但馬王様の墓か？ 入佐山古墳群 2006.5.6.

4世紀後半 古墳時代の方墳 入佐山 3号墳 2006.5.6.

歌碑がところどころに配された尾根筋の古墳をたどる遊歩道の奥

静かな木立の中 尾根筋の一番奥 一番高い所に高さ数mの方墳辺の痕跡が見える

古墳群の中で一番古い最初の族長の墳墓と見られ、二つの木棺が収められている。

この第一主体の木棺の枕元に砂鉄が土器に入れられて置かれ、周りに刀剣・鍬・武器・玉類などが副葬

朝鮮半島からこの地へやってきた鉄の技術集団の長と考えられる



本年4月 小野田泰直著「邪馬台国と『鉄の道』」に出会う

大陸から 北部九州=日本海沿岸=氷上回廊=淡路=紀ノ川=大和 へ
魏志倭人伝に記された邪馬台国への道 との提案に共感

知っているようで良く知らぬ 鉄の道としての氷上回廊
日本一低い分水界 氷上町石生「水別れ」を歩きました



魏使は日本海側から邪馬台国・大和へ 古代の動脈 由良川=加古川ライン

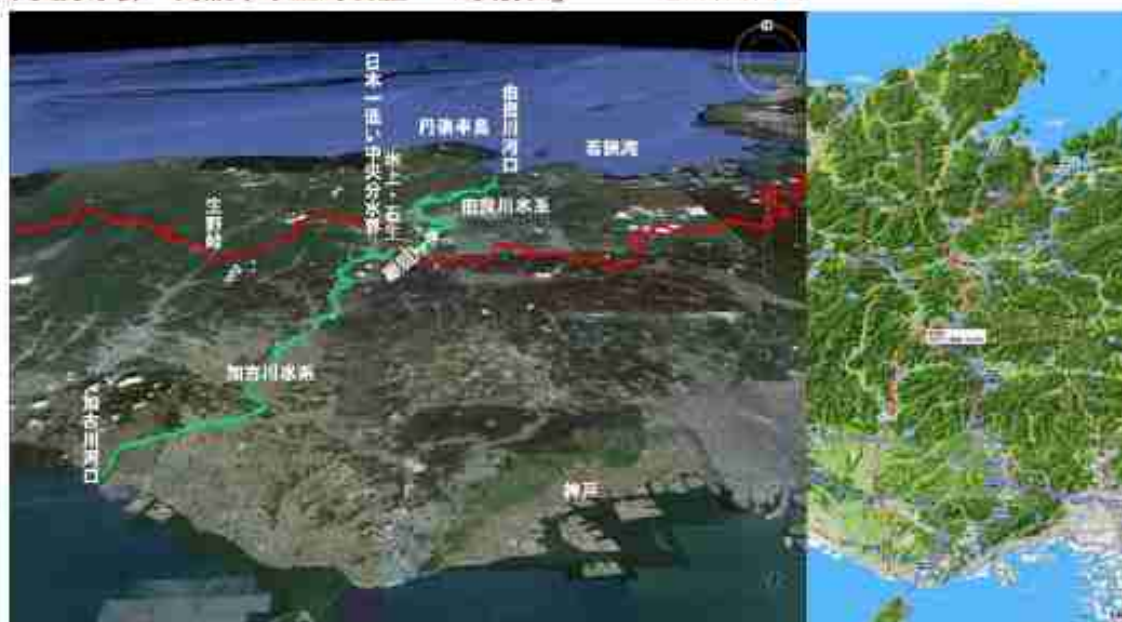
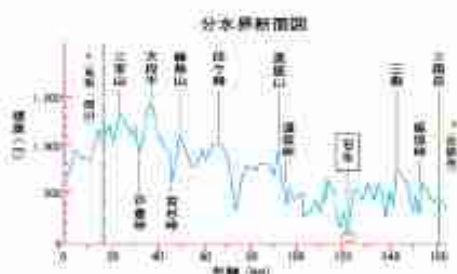
由良川を南に遡上し、支流の土師川・竹田川・黒井川を経て、加古川上流に出ると後は加古川を下るだけ。
一度の山登りも経験することなく瀬戸内に出られる。
わずか海拔95メートルの峠[いつ越えたかわからぬ「日本一低い」分水嶺が一つあるだけである。

小野田泰直著「邪馬台国と『鉄の道』」より

日本で一番低い分水界[水別れ]を越えて 瀬戸内海と日本海を結ぶ氷上回廊
 加古川水系域から由良川水系域へ 山越・峠越のない「水別れ街道」を行く



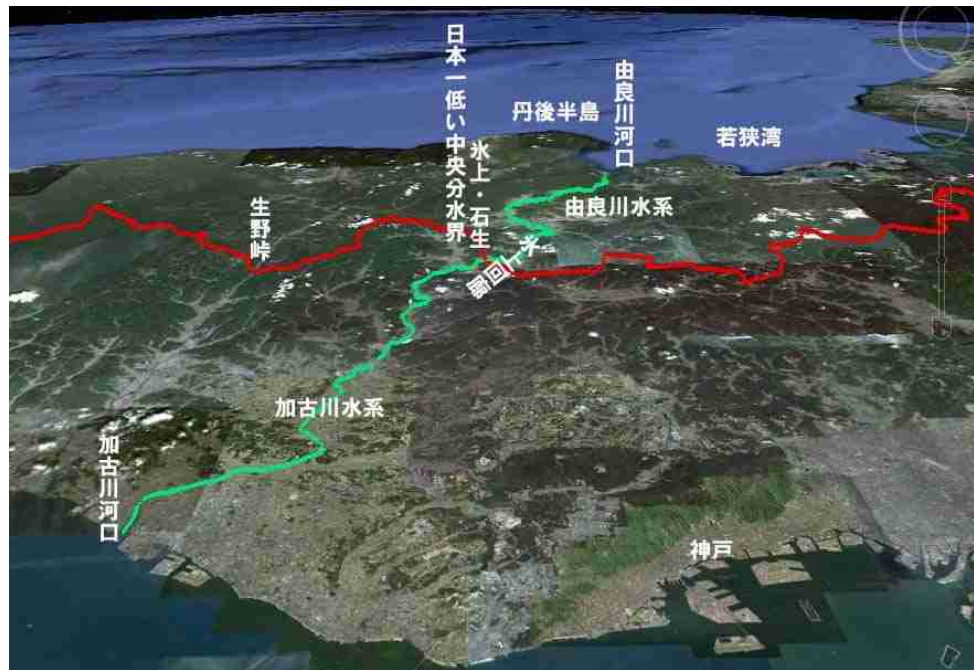
日本一低い中央分水界 丹波市氷上町石生 「水別れ」 2011. 5. 14.



瀬戸内海と山陰を結ぶ日本一低い中央分水界越 太古からの重要路 氷上回廊を行く

加古川に沿って北上し、由良川水系を結ぶ国道175号水別れ街道
最高標高 95mの分水界 氷上・石生 水別れ公園

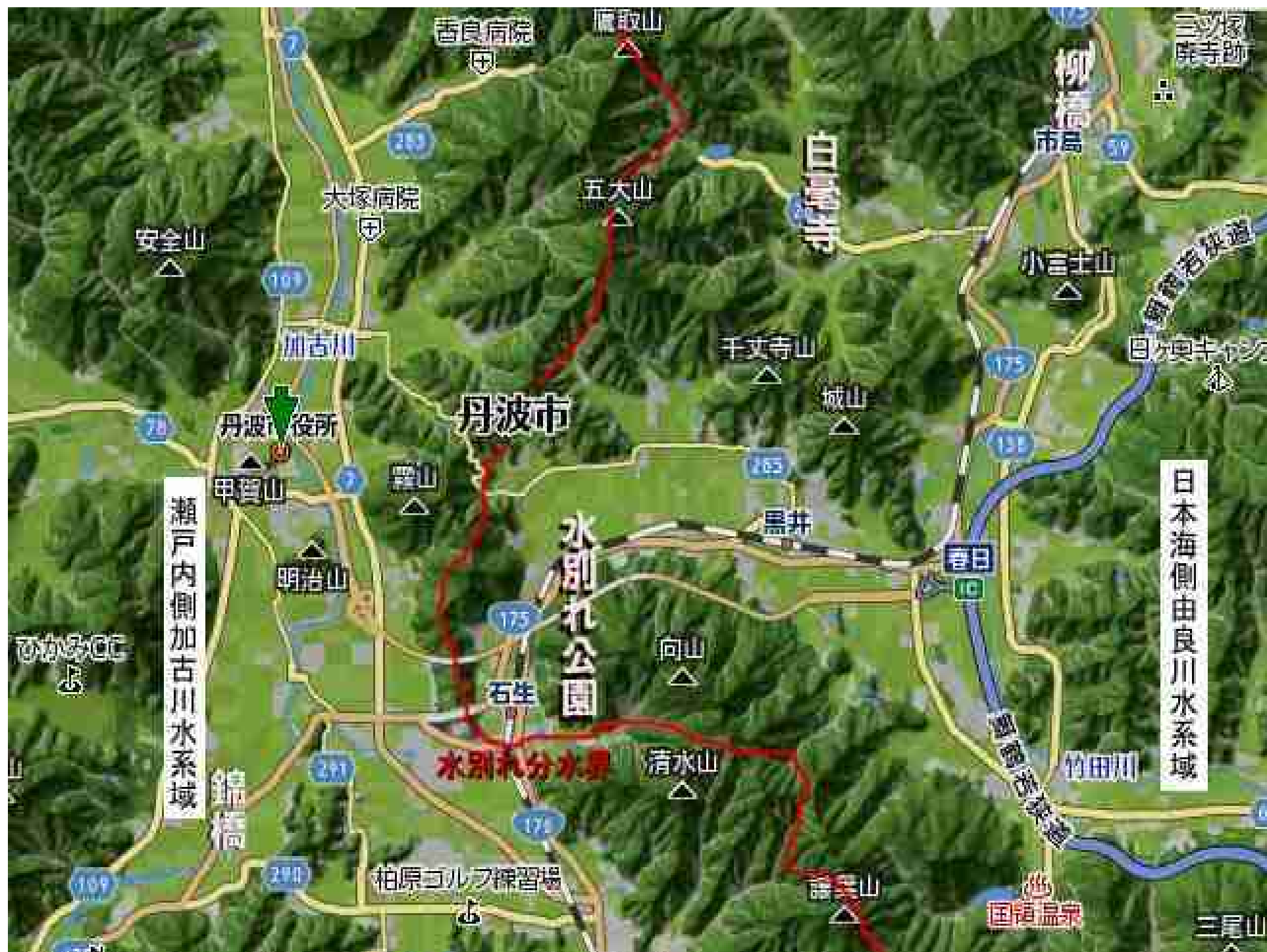
2011.5.14.



瀬戸内海と山陰を結ぶ日本一低い中央分水界越の回廊 氷上回廊は太古から西日本の動植物にとって気候変動の克服のため、表・裏日本を移動する重要路。この氷上回廊周辺には回廊を通過した数多くの動植物の分布が今も見られる。小野田泰直著「邪馬台国と『鉄の道』」ではこの「氷上回廊」が魏志倭人伝に記載された古代倭と中国との交流路「卑弥呼の道」と提案する。

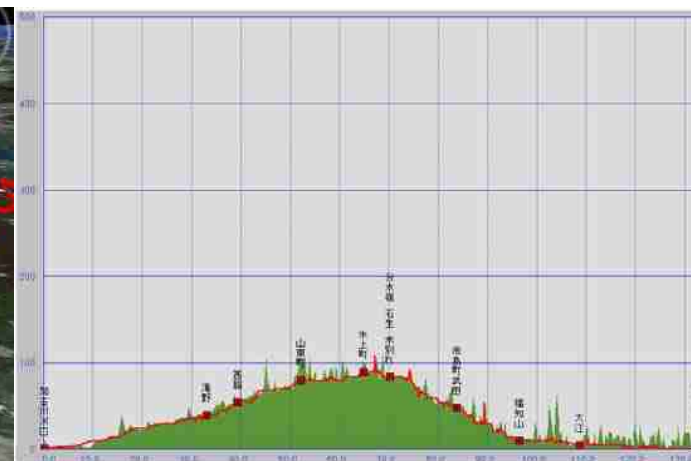
かつてより ぼんやり抱いてきた「古代の和鉄の道」のイメージが学者によって表舞台に提案された。何度も出かけたことのある地域であるが、これを機会に この氷上回廊が「本当に山・峠越のない平坦な回廊なのか？」確かめようと 5月14日 水別れ公園周辺へ出かけました。







日本一低い中央分水界を行く国道175号線
水別れ街道 石生水別れ公園 周辺図



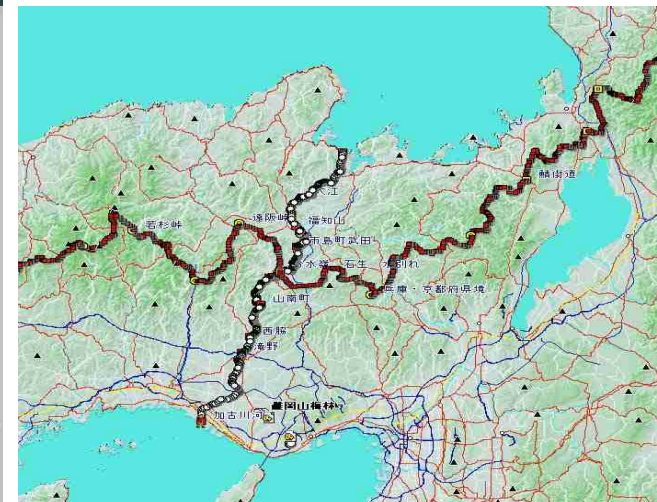
加古川水系から由良川水系をつなぐ

氷上回廊の路線標高図

国道175-176号線を結ぶ水別れ街道



中国山地から丹波山地へ
西日本 中央分水界の標高図



中国山地から丹波山地へ 中央分水界



柳橋より南側



柳橋より北側

分水嶺の北 市島町を北から南へ流れ下る由良川水系竹田川 丹波市市島町柳橋で 2011.5.8.



日本列島中央分水界 日本一低い分水嶺 氷上町 水別れ公園

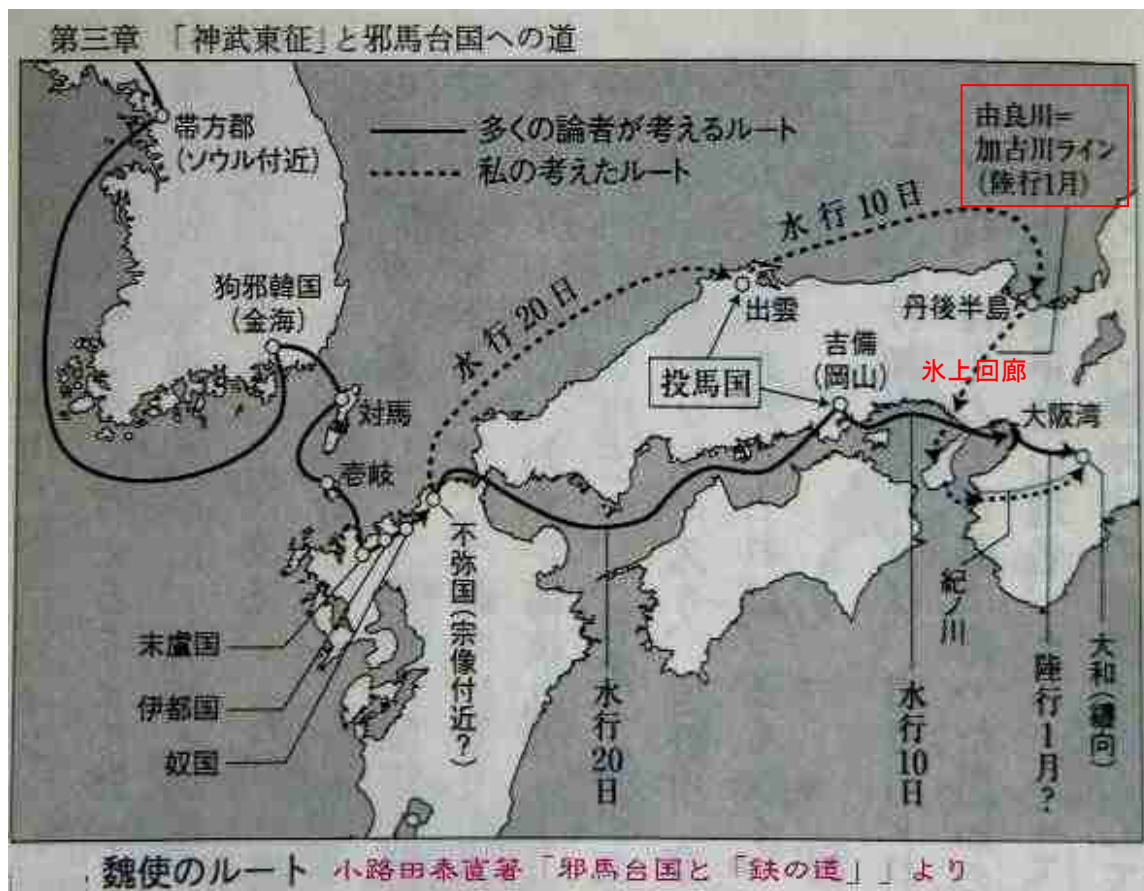
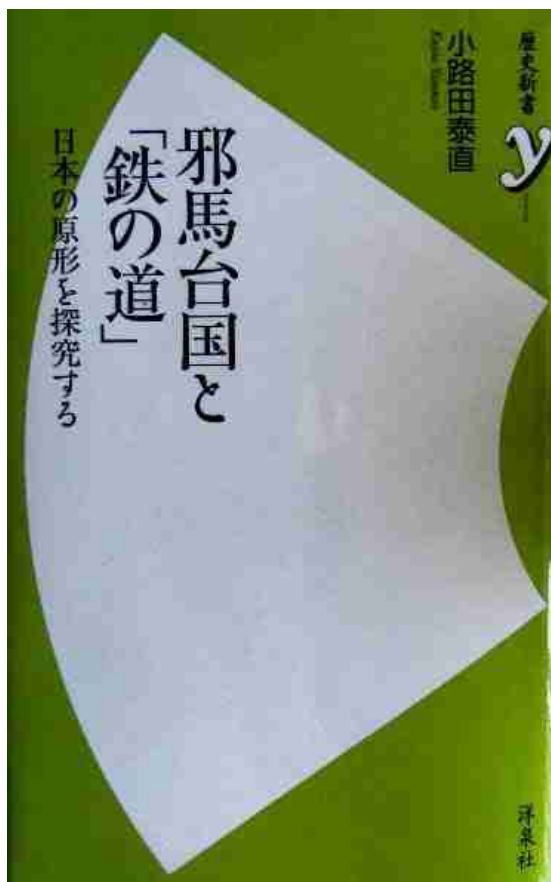


錦橋より南側



錦橋より北側

分水嶺の南 氷上を北から南へ流れ下る加古川 丹波市氷上町新郷 錦橋で 2011.5.8.



魏使は日本海側から邪馬台国・大和へ 古代の動脈 由良川＝加古川ライン

由良川を南に遡上し、支流の土師川・竹田川・黒井川を経て、加古川上流に出ると後は加古川を下るだけ。一度の山登りも経験することなく瀬戸内に出られる。
わずか海拔95メートルの峠[いつ越えたかわからぬ「日本一低い」分水嶺が一つあるだけである。

小野田泰直著「邪馬台国と『鉄の道』」より

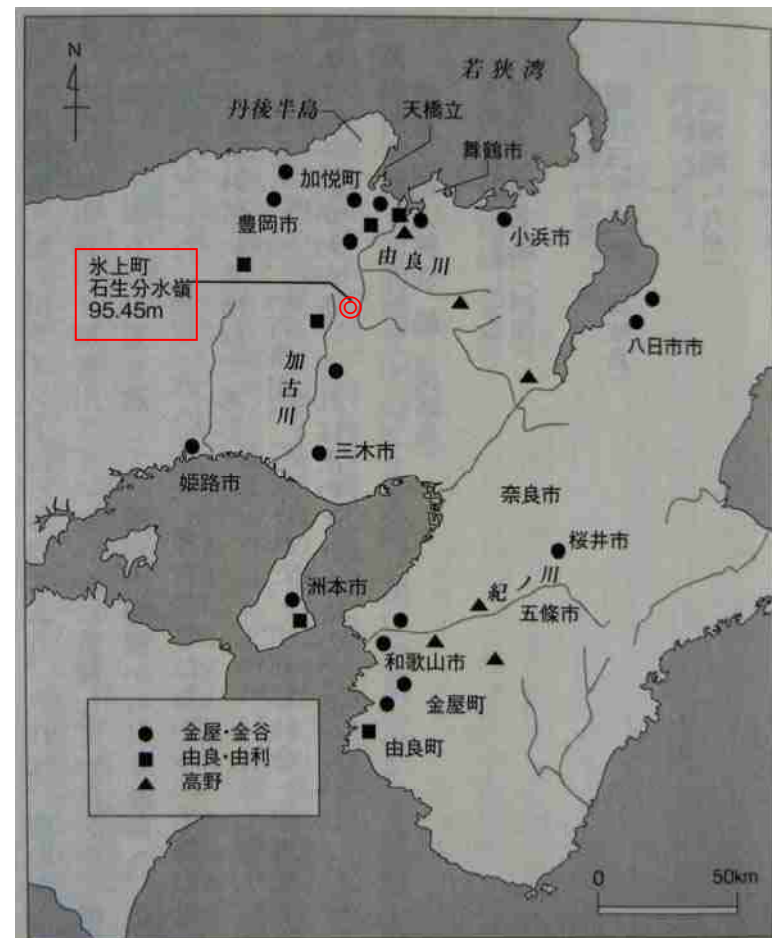


少々 こじつけ気味であるが、兵庫県で出土した三角縁神獸鏡の出土地を点でつなぐと、畿内攝津の尼崎から大阪湾神戸を播磨へ抜けてゆく重要路 瀬戸内海の道筋と丹波・但馬を抜け、日本海をたどる道筋が見えてくる。

特に 丹波・但馬・因幡とつなぐ道は、数多くの渡来人・製鉄鍛冶の歴史を刻む鉄の道。この鉄の道の存在が大和王権を作った吉備・出雲・大和を結び付けたに違いないと考えている。

和鉄の道 2007年1月

「神戸市内出土の三角縁神獸鏡の足跡が語る古墳時代の鉄の道」 より



鉄の道 マップ

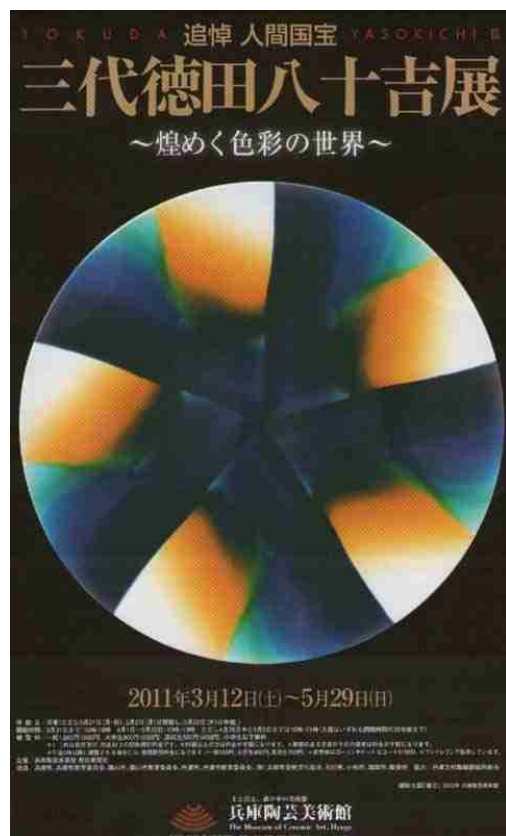
鉄の生産地を示す「金屋」系統・湯凝系統・鉄の輸送路を示す湯浦(由良)系統の地名を機がたっただけ近畿地方の地図に落とす。

見事に由良川＝加古川＝淡路島＝紀ノ川ラインに乗る。

小野田泰直著「邪馬台国と『鉄の道』」より



新緑の中に埋もれる陶芸の里 立杭 2011.5.14.



九谷焼 人間国宝

三代徳田八十吉展 煌めく色彩の世界

篠山市立杭

兵庫陶芸美術館 2011. 5. 14.



デカンショ街道 国道176号線 篠山口駅前 2011. 5. 14.



武庫川水系の篠山から直接加古川水系の氷上盆地に出る176号線デカンショ街道では鐘ヶ坂の山越が必要。 2011. 5. 14. かつて考えたこの鉄の道は鐘ヶ坂の山越えが必要だった

または 篠山から 加古川に合流する篠山川沿いを西に下って山南に出れば、山越えせず氷上盆地に入れる

柏原駅のすぐ北で そのまままっすぐ
進めば分水嶺の石生へ出れるが、左
に折れて、盆地の西端を流れる加古
川岸から「国道175線水別れ街道」に
でて分水嶺石生へ向かう



デカンショ街道 176号柏原駅付近



加古川へ向かって西へ 加古川に架かる錦橋手前の氷上町稲畑周辺

2011. 5. 14.



5月の連休が明け 田植えが始まった 丹波・氷上の里で 2011. 5. 14.



レンゲ満開の加古川西岸土手下の田圃 丹波・氷上町新郷の里で 2011. 5. 14.



レンゲ満開の加古川西岸 土手下の田圃 丹波・氷上町新郷の里で 2011. 5. 14.



レンゲ 丹波・氷上 新郷 加古川西岸で 2011. 5. 14.



5月の連休が明け 田植えが始まった 丹波・氷上の里で 2011. 5. 14.



丹波市氷上町 錦橋から眺めた加古川 上:上流側 下:下流側 2011.5.14.



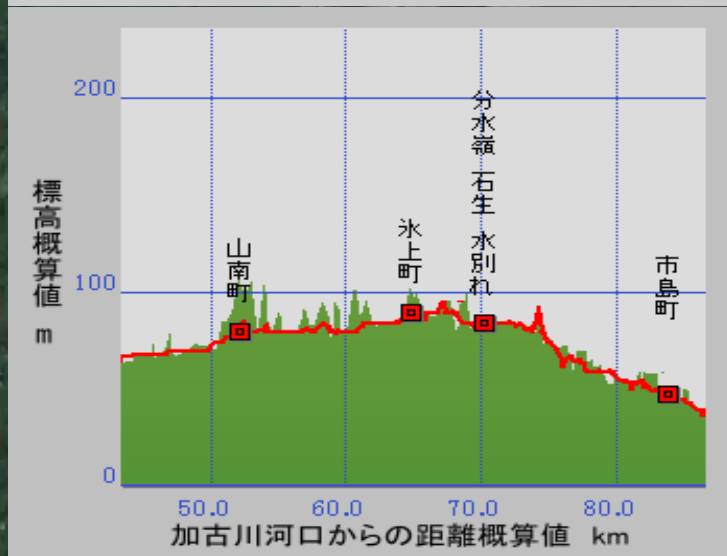
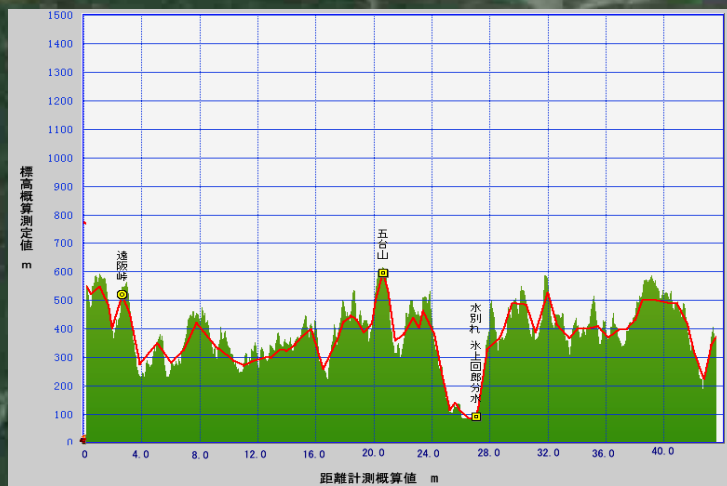
加古川東岸を北の分水界 石生へ 2011. 5. 14.
水別れ街道 国道175号線 氷上・稲畑周辺



加古川に合流する柏原川の合流点で東へ折れて
柏原川に架かる稲継橋を渡ると西日本の中央分水界石生



石生周辺 国道175号線はまっすぐ陸橋から分水界 城山トンネルへ
日本一低い石生の分水界は陸橋の右側奥 陸橋を左から右へ潜る
正面 城山の裏側が由良川水系 手前が加古川水系である

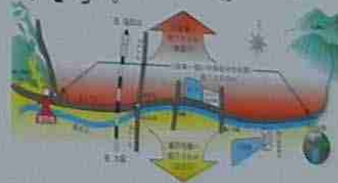




水別れ 石生新町周辺 一番低いところ

日本一低い中央谷中分水界 『石生の水分れ』

ここが日本一低い分水界のうしろ
一番低い地点で、標高八五、四五
メートルです。
高谷川の右岸（北側）を流れて
ここまで約千二百五十メートルの
間が分水界になっています。
この分水界に落ちた雨水は
北側に落ちると由良川を流れて
日本海へ、南側に落ちると加古川を
流れて瀬戸内海へと流れていきます。
この由良川と加古川水系は、昔から
人・物・文化が行き来することができ
るため『水上回廊』と呼ばれ、豊かな
歴史を刻んできました。
ここから、分水界は山へのぼり
中央分水嶺となります。



丹波市
丹波市観光協会
東地区自治会連合会



JR福知山線 石生踏切 (石生駅の南側)

日本一低い中央谷中分水界

『石生の水分れ』

ここが日本一低い分水界のうち一番低い地点で、標高九五、四五メートルです。

高谷川の右岸（北側）を通過してここまで約千二百五十メートルの間が分水界になっています。

この分水界に落ちた雨水は北側に落ちると由良川を通過して日本海へ、南側に落ちると加古川を通過して瀬戸内海へと流れていきます。

この由良川と加古川水系は、昔から人・物・文化が行き来することができたため『氷上回廊』と呼ばれ、豊かな歴史を刻んできました。

ここから、分水界は山へのぼり中央分水嶺となります。

丹波市
丹波市観光協会
東地区自治振興会





中央分水界
水別れ

水別れ公園

いそ部神社

町石

日本一低い中央谷中分水界
『石生の水分れ』

「ここが日本一低い分水界のつち」
一番低い地点で、標高九五、四五メートルです。

美谷川の右岸(北側)を流れて、
二二五メートルの谷間に、
分水界がなっています。

この分水界に落ちた雨水は
北側に落ちると由良川を通じて
日本海へ、南側に落ちると加古川を
通って瀬戸内海へと流れていきます。

この由良川と加古川水系は、昔から
人物文化が栄え、多くの名産品が
生まれてきました。

ここから、分水界は山へのぼり
中央分水嶺となります。

内務省
国土地院
美谷川流域調査報告書





中央分水界に沿う谷に架かる水別れ橋

2011. 5. 14.

『水分れ橋』

この橋は、日本一低い水分れ中央分水界（約一二五〇メートル）にわたる谷中央分水界の中ほどにかけられた橋です。

『水分れ橋』の『水分れ』は『身分れ』と同じ音なので分かれることをきらい、以前は嫁入り行列は『おおかみ橋』を通りました。

しかし、古来より、日本海側と瀬戸内海（太平洋）側の人・物・文化・情報をつなぐ『氷上回廊』の中心点です。

今も、国道一七五号線と一七六号線の合流点で、交通のかなめとなる重要な地点です。



丹波市観光協会
丹波市

東地区自治振興会
石生区



水別れ公園



← 日本海側 | 水別れ 分水界 | 瀬戸内側 →







氷上町石生・水別れ公園 2011. 5. 14.



水別れ公園にある日本一低い中央分水嶺の概説案内板



日本で一番低い分水界 水別れ

氷上町石生 水別れ公園で 2011.5.14.



日本で一番低い分水界 水別れ

氷上町石生 水別れ公園で 2011.5.14.



水別れ公園から谷川ぞいの分水界に沿って水別れ橋まで戻り 北へ折れて由良川に合流する竹田川流域を訪ねて市島町へ 2011.5.14.



水別れ橋から 水別れ公園方面 谷川沿いの下ってきた道が分水界



水別れ橋から 分水界を越えて 北への道 275号線(旧道)



柳橋より南側



柳橋より北側

分水嶺の北 市島町を北から南へ流れ下る由良川水系竹田川 丹波市市島町柳橋で 2011.5.8.



日本列島中央分水界 日本一低い分水嶺 氷上町 水別れ公園



錦橋より南側



錦橋より北側

分水嶺の南 氷上を北から南へ流れ下る加古川 丹波市氷上町新郷 錦橋で 2011.5.8.



分水界の山々を眺めながら、田園地帯を北へ 春日町から市島町へ 2011.5.14.



行く手に竹田川が見え、間違いなく北へ流れている

2011. 5. 14.



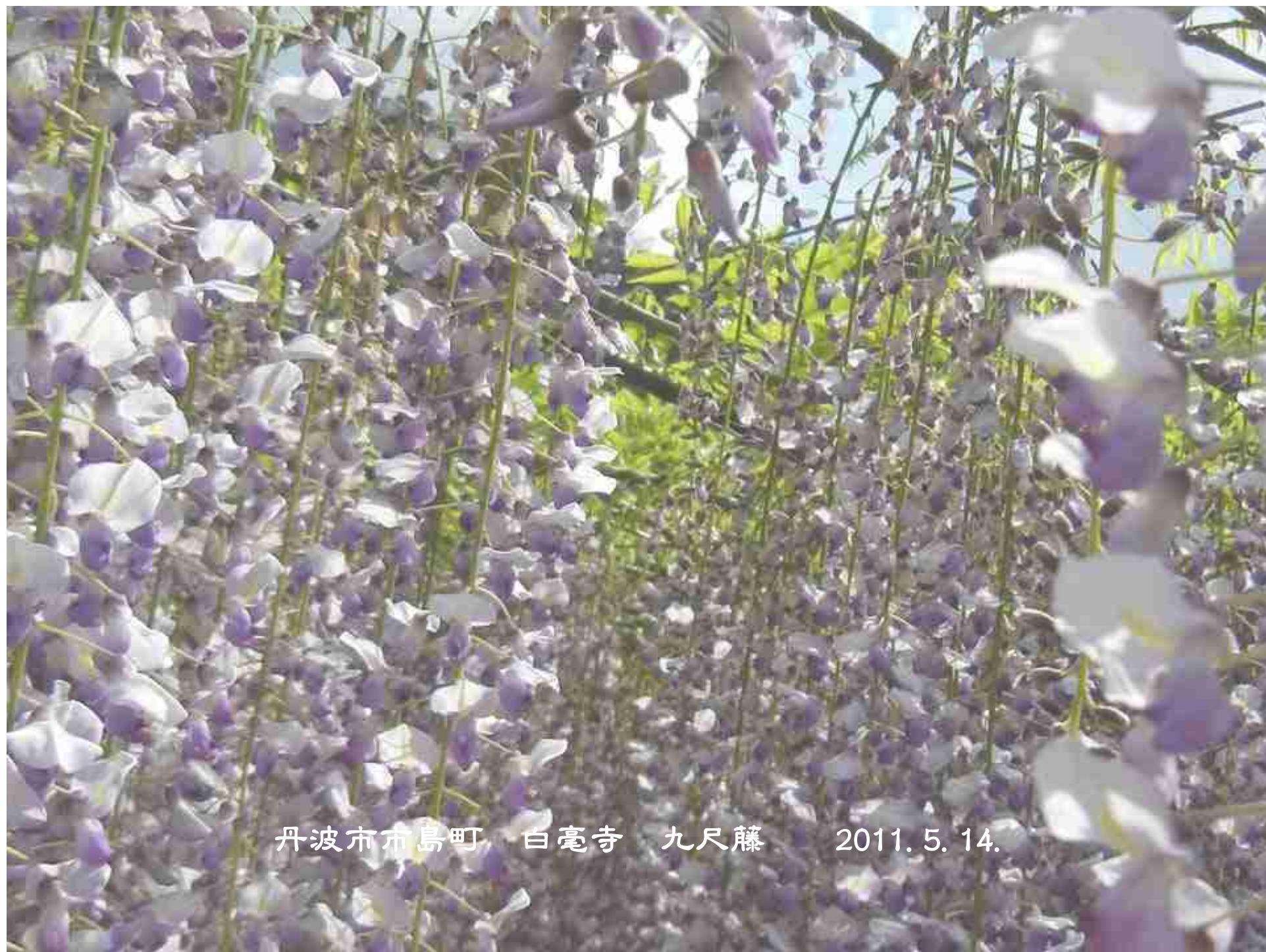
竹田川は間違いなく北へ流れている 2011. 5. 14.

加古川から竹田・由良川を結ぶ水別れ街道は山越えすることなく 瀬戸内と山陰を結んでいることが、確認できた。

市島町支所まで行って 橋を探して 川の流れの写真を撮って引き返そう



前方に「白毫寺」の案内標識 「九尺の藤」で有名で 今満開
白毫寺に立ち寄る



丹波市市島町 白毫寺 九尺藤 2011. 5. 14.



丹波市市島町 白毫寺 九尺藤 2011. 5. 14.



市島町を北に流れ下り、由良川に合流する竹田川 2011. 5. 14.

竹田川は間違いなく北へ流れている

加古川から竹田・由良川を結ぶ水別れ街道は山越えすることなく 瀬戸内と山陰を結んでいることが、確認できた。



柳橋より南側



柳橋より北側

分水嶺の北 市島町を北から南へ流れ下る由良川水系竹田川 丹波市市島町柳橋で 2011.5.8.



日本列島中央分水界 日本一低い分水嶺 氷上町 水別れ公園



錦橋より南側



錦橋より北側

分水嶺の南 氷上を北から南へ流れ下る加古川 丹波市氷上町新郷 錦橋で 2011.5.8.



市島からまた、水別れ街道を南へ 分水界を越えて 氷上 2011. 5. 14.



加古川の土手に戻ってきて、 まっすぐ加古川に沿って南へ 水別れ街道を下る



氷上から 加古川に沿って 篠山への分岐 山南町へ 2011. 5. 14.



黒田の庄 西脇周辺で

2011. 5. 14.



山間を抜け、広大な播磨平野をまっすぐ南へ 社町周辺 2011.5.14.

本当に氷上回廊を通れば 瀬戸内海から日本海まで、山越えの峠通らずにゆけるのか???

これを確認したくて、氷上回廊を走る水別れ街道を走りました

新緑に包まれた陶芸の郷で 素晴らしい九谷の陶芸展を見て、水別れ街道を走る山々は新緑に包まれ、街道筋の田圃には水が入り、田植えが始っていました。 また、一面ピンクのレンゲ畑も。 そんな中を 日本で一番低い分水界から 北に由良川に流れ込む竹田川 南へ加古川がゆったりと流れ下っていました

今でないと見られぬ春から初夏へと移り変わる季節の素晴らしい田園風景でした

1. この氷上回廊に行く水別れ街道は 日本海まで 本当に山越え峠がありませんでした
2. 加古川水系と由良川水系の分水界 日本で一番低い分水界 氷上町石生の「水別れ」 久しぶりでしたが、美しい公園に整備され、水の流れの分水には作られた分水の感じがしましたが、分水界を越える道にしゃがんで見通すとここが分水界と判る。
(国道176号線が国道175号線にひきつがれる水別れ橋で)
3. もう一つ 「武庫川水系の篠山から山越えなしに水別れの分水界を直接越えられる」と思っていました、篠山盆地と氷上盆地の間の鐘ヶ坂の山越えがありました。

氷上回廊を通して、福知山に出ると由良川を下って丹後の日本海に出られる。
また、福知山から 西に国道9号線の道を取れば、大きな峠を越えることなく和田山から但馬の中心を日本海に流れ下る円山川に出られる。

氷上回廊は大きな山越・峠越なく、瀬戸内海と日本海側の但馬・丹後をつなぐ道であること確認。
太古からの動植物移動の重要路 古代 大陸と倭を結ぶ「和鉄の道」「卑弥呼の道」
そして 今も 国道175号線が走る地域交通の要である



柳橋より南側



柳橋より北側

分水嶺の北 市島町を北から南へ流れ下る由良川水系竹田川 丹波市市島町柳橋で 2011.5.8.



日本列島中央分水界



日本一低い分水嶺



米上町 水別れ公園



錦橋より南側



錦橋より北側

分水嶺の南 米上を北から南へ流れ下るか古川 丹波市米上町新郷 錦橋で 2011.5.8.



参考資料 和鉄の道 より

1. 古代鉄の王国 丹後 天女の通った道は和鉄の道 羽衣伝説
2. 丹後国 もうひとつの邪馬台国 大陸と日本を結ぶ鉄の大加工基地 遠所製鉄遺跡
3. コウノトリが大陸と日本を結ぶ古代和鉄の道 「古代 和鉄の郷但馬 出石」
4. 古代 神戸の「鉄」を訪ねて 神戸にも製鉄遺跡があった 神戸市内の「二宮製鉄遺跡」と「求女塚古墳」
5. 卑弥呼の時代からの大陸への玄関口 若狭・北近江の「若狭街道」
6. 古代 大和への道【4】 紀ノ川水系【2】 古代「紀路」紀ノ川の流れに沿って大和へ Country Walk

ほか



日本で一番低い分水界 水別れ 氷上町石生 水別れ公園で 2011.5.14.